第 27 回日本心血管インターベンション治療学会参加報告

華岡青洲記念心臓血管クリニック　山口隆義

皆様、こんにちは。華岡青洲記念心臓血管クリニックの山口です。今回は CVIT（日本心血管インターベンション治療学会）2018 の報告です。

私の duty は、放射線セッションの「CT 所見を理解する　冠動脈 CT から valve、下肢動脈を診る」の中で「CT 支援の最新情報」というお題を頂き演者としての参加でした。持ち時間が短かったので、色々悩んだ結果、FFRCT とキャノン CT-FFR、SMILIE、心筋セグメンテーションを使った治療支援について話してきました。各演者からも、様々なモダリティによる治療支援画像が提示され、充実したセッションとなりました。

出番はこれだけで、書籍の執筆も直前に完了出来ていた（少々締め切りからは遅れましたが）ので、爽やかな気持ちで気楽に参加と思ってクリニックを出発しました。しかしながら、今回の CVIT は私自身にとってとても刺激的な会となりました。

初日の朝に、いきなり Cone beam CT の下肢血管 3D 画像を見せられ、PPI マニアでなくてもそそられるハイクオリティな画像でした。そして、最新デバイスの情報を得るために参加したセッションでは、気になっていた IMPELLA を勉強し、Viabahn の現状、新しい石灰化アテレクトミーデバイスの特徴を知りました。循環器医療はどんどん進化しますね。その日のランチョンはもちろんキヤノンさんに参加です。（となりのフィリップス社員をなんとか振り切りました）当然プレシジョンの画像にうっとりしながら、後半は新しいアンギオ装置である Alphenix の使用経験をお聞きしました。良くなりましたね、アンギオ装置！

午後からは、へき地における心血管インターベンションの現状を取り上げたセッションがあり、色々考えさせられる内容でした。そして、ようやく私の出番。気持ち良くお話させて頂きましたが、我々のセッションの座長を担当されていた松村さんとの出会いが、とても

刺激的でした。
　翌日は、最近注目の left distal radial access に関するビデオライブを見て、新たなスタンダードが登場したと感じました。その後、そのまま座っていると、続々と人が会場に集まりだして？？と思っていたら、会長企画の対談が始まり元広島カープの黒田選手が大拍手の中登場しました。これまでの大リーグでの経験談やなぜ広島に戻ったのかなど、話されていました。ちょっと得した感じでした。

　この日のランチョンは、順天堂大学の隈丸先生による FFRCT のお話を聞くことが出来ました。順天では、独自に deep leaning を用いた FFRCT を開発しているとのことで、どのようなアプローチかが今回わかりました。今後に期待です。午後は、平成 30 年の診療報酬改定に関するセッションに行きました。厚生労働省の方のオーバービューがあったのですが、小樽の平野さんにそっくりな方でした。何回見ても平野さんなので、最後には平野さんが厚生労働省の役人になった事にしました。その後は、中四国シンポジウムのご当地コメディカルの会に参加しました。この日の夜には、放射線部門の懇親会も開催されました。おそらく日本で初めてのスペイン料理屋さんという所が会場で、ものすごく暑くて喉がカラカラなのに、最初からワインの飲み放題というこだわりのお店で、歴史を感じられる空間でした。そこで、松村さんと再会し、色々とお話させて頂きました。凄い方です。もともとは神戸赤十字病院の放射線技師さんでしたが、思う所あってニューヨークの cardiovascular research foundation(CRF)に入って 5 年間行ったっきりだそうです。CRF といえば、超有名な Gary Mints 先生の所で、そこの core lab で働きながら論文を書きまくっている人です。話すほどに意気投合という感じで、大変刺激を受けました。また、どこかで会うのが楽しみです。
　最終日も、画像診断関連のセッションに参加し、午後には CT 認定

機構の講習会のため、東京に移動。翌日の講師のお仕事を済ませて、今羽田空港でこの原稿を書いているといった具合です。

　なにかアクションを起こさなければ、なにも始まらないし、新しい出会いも生まれませんよね。それを改めて感じられた長旅でした。でも、この時期の本州出張は暑くて辛い！！

懇親会にて:昭和大学の佐藤さん(左上)、山梨大学の坂本さん（右上）、私（左下）と CRF の村松さん（右